

事業名

「身近な森林の活用を考える」



- 1 実施団体 NPO 法人青梅林業研究グループ
- 2 担当課 青梅市経済スポーツ部 農林水産課/教育委員会 指導室
- 3 実施時期 令和元年9月6日～令和2年3月31日
- 4 参加者 森林ボランティア関係者、教員関係者、一般市民、企業
などで、森林に興味のある方
- 5 実施場所 青梅の森/青梅市文化交流センター
あまがさすの森/成木小学校
- 6 事業の目的 青梅市内の森林と、森林環境税の有効活用と
森に関わる人材の育成

※その背景として近年、学校関係からの森林環境教育や、森林林業体験のニーズが高まっている。しかしながら、そのようなニーズに対して、対応できる人材や団体の高齢化、人材不足が懸念されている

7 役割分担

●団体の役割

- ・森林環境税、森林環境譲与税に詳しい方への講師依頼
- ・森林環境教育や環境学習に詳しい方への講師依頼

●担当課の役割

- ・森林環境譲与税の有効かつ適切な使い方を実行するために、各行政担当者や団体、教育機関との連携や調整を図る。
- ・身近な森林に対する意識の向上

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

- ・市内の身近な森林の実情を知る事により、放置山林の利活用と、未来の担い手の育成を図る取組について、理解者が増えた。
- ・具体的に、考え行動する人材の発掘ができた。

9 目標達成

●事業の目標

- ・市内の森林を活かした人材育成を担う、人材ネットワークの構築

●目標の達成具合

- ・講師を呼んでの2回の勉強会と、後に行った勉強会参加者との意見交換会において、定期的な情報交換の場ができた。
- ・参加者中心とした「身近な森林の活用を考える会(仮称)」という市内の森林を活かした人材育成を担う人材ネットワークができた。

10 事業の実施内容

- 9/6(金)以降より、青梅市とNPO法人青梅林業研究グループ（以下略称：青梅りんけん）が中心となって、勉強会の開催に向けた森林ボランティア関係者、教育関係者、一般市民、企業の洗い出し、勉強会への参加声掛けを行った。

●11/4(月)祝日 森の勉強会 身近な森林の活用を考える(1回目)
(総勢参加者42名)

前半は、青梅市文化交流センターにて、農林水産課川田係長より、「森林環境税・森林環境譲与税」に関するお話を聞いた後、青梅りんけん会員から、「身近な森林の現状について」の話を聞いた。その後の基調講演では、「森林を活用した教育」の話を環境学習研究会の谷村氏から、「学校との繋がり“連携”」の話を中野区立南台小学校校長の松井氏のお二人から、お話を伺った。

後半は、青梅の森(市有林)の散策を行い、整備森林、未整備森林の視察を行った後、森の中で意見交換を行った。

※詳しくは別紙、実施報告書①参照

●12/8(日) 森の勉強会 身近な森林の活用を考える(2回目)
(総勢参加者55名)

前半は、成木小学校なかよしホールにて、農林水産課川田係長より、「森林環境税・森林環境譲与税」に関するお話を聞いた後、青梅りんけん会員から、「身近な森林の現状について」の話を聞いた。その後ファシリテーターの環境学習研究会、谷村氏の進行で、基調講演を行った。「小学校における森林と教育」の話を世田谷区立等々力小学校の中楯氏から、「幼稚園における森林と教育」の話を青梅幼稚園園長横山氏から伺った。

後半は、あまがさすの森(民有林)の散策を行った。森林空間の活用事例や、台風19号の被害状況を視察した後、森の中で意見交換を行った。

※詳しくは別紙、実施報告書②参照

●1/11(土) 森の勉強会 今後の活動について(3回目)
(総勢参加者25名)

2回の屋内屋外における勉強会での反省点や意見交換を、前回までの勉強会に出席された参加者を交えて行った。その中の意見として、今後月1回程度のペースで、身近な森林の活用を考える会(仮称)として、テーマや具体的案件をもって、協議する場ができた。

※身近な森林の活用を考える会、2/6まで開催。3/10は、新型コロナウイルス拡散防止のため延期、4/7予定としている。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	3	2
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
(3)協働の役割分担は適切だった	2	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	3	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

今後の課題・改善点としては

- ・身近な森林の活用を考える会（仮称）の運営方法の協議
- ・新しい組織を作るのではなく、既存団体での人材ネットワークの強化
- ・すでに市民団体からの森林環境教育や、林業体験の案件があがってきているため、案件を持ってきた団体や関係者が主体的に動く体制の構築
- ・幼保小学校などの教育関係者の参加も多いので、行政と市民が一体となった、将来の森林環境教育、林業体験の指導者育成の推進

13 その他

- ・森林環境税、森林環境譲与税の適切な運用をするうえで、身近な森を守る将来の担い手育成は必須である。青梅市での早急な取り組みを望む。